

令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2021

課題番号：16K02547

研究課題名(和文) フランスの対外文化政策の一環としてのクローデルの駐日大使赴任に関する調査と研究

研究課題名(英文) Research on Paul Claudel's works in the French cultural diplomacy

研究代表者

根岸 徹郎 (Negishi, Tetsuro)

専修大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：90349176

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：ポール・クローデルの作家・外交官としての仕事を日仏文化交流の観点から広く捉え直そうとする本研究の成果として、まず外交文書の調査と整理が挙げられる。それを基に研究代表者は「ポール・クローデルとカトリック布教」といったいくつかの論考を定期的に刊行した。また専門家以外への発信として、2018年および2021年に2つのシンポジウムと1つの研究集会を開催(うち2つは本研究が共催)し、さらにクローデルに所縁のある横浜の神奈川県立近代文学館での「詩人大使ポール・クローデルと日本」展において日仏交流史における1920年代というテーマのもとに、20世紀前半の文化外交の在り方を立体的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究成果のもっとも大きな学術的意義は、ポール・クローデルが滞日期間(1921年～1927年)に果たした文化的な役割を、作家の個人史ではなく1920年代という時代背景と日仏間の外交関係の中から明らかにした点にある。このことで専門研究者だけではなく、社会、歴史に関心のある人々の関心も広く惹くことができ、具体的な成果はまず2018年に神奈川県立近代文学館で開催された「詩人大使ポール・クローデルと日本」展の開催ならびに同年の東京の日仏会館と関西日仏学館での2つのシンポジウムに結実し、さらに2022年の「クローデルとその時代」という公開研究会へと繋がることで社会的な発信となり、多くの参加者を得た。

研究成果の概要(英文)： The first objective for our research is to enrich the documents on Paul Claudel's diplomatic and literary works and to analyze them. In this process, I have published some articles as "Paul Claudel and the Catholic mission in Japan". And for the public who interest in general history or in French literature in 20th century, I have organized and joined 2 symposiums and 1 seminar on Claudel's work in Japan. I have also participated in the exposition on Paul Claudel in Yokohama. With these studies and activities, our research has accomplished our task which is to clarify the 1920's French cultural diplomacy and role that Claudel was charged in this doctrine.

研究分野：人文学(フランス文学)

キーワード：フランス文学 フランス演劇 フランス文化外交 日仏交流

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初のクローデル研究に関しては、文学作品の分析、次にカトリック教徒としてのクローデル像の解明が行われてきたが、外交面でのクローデルの研究は全体像を捉えるのは極めて難しいことから、まだ十分な研究が行われていなかった。

こうした状況の中で、研究代表者は『日本におけるポール・クローデル』の出版(日本語版 2010、フランス語版 2012)などを通して得たデータベースをさらに充実させることをスタート地点として、さらにクローデルの日本滞在を包括する全体の枠組みとして、クローデルに与えられた「フランス語の普及」という際立った任務に注目し、そこから日仏文化交流史におけるクローデルの外交官、文学者としての活動全体を俯瞰する視座を得ることから、彼の活動の背景を形成するフランス第三共和国の文化外交戦略との関連を明らかにすることが、本研究の開始時の意義であると考えた。

2. 研究の目的

クローデルが滞日中に行った文化的・外交的な業績に関わる資料の充実とその検証が、最初の目的である。次にその資料をデータベースとする研究の深化により、クローデルの駐日大使任命とその使命という観点から 20 世紀初頭のフランスの文化外交政策を明らかにすることが研究の次の目的である。さらに、このクローデルを「詩人大使」として迎え入れた 1920 年代の日本における対外的な意識の状況を照らし出すとともに、彼の外交官、文学者としての活動全体を俯瞰する視座から、植民地を含めた 20 世紀前半の国際社会の関係に関する状況を検証し直すことを、本研究の第三の研究目的とした。

3. 研究の方法

フランス外務省ならびにフランス国立図書館、日本の各地の資料を蒐集、整理することで、日本赴任時のクローデルの仕事を検証することで、基礎となるデータベースの充実を図る。そのうえで、以下の 3 つのステップで研究を進める。

- (1) クローデル任命にいたるまでのフランスの外交姿勢を検証する。
- (2) クローデルに与えられた訓令を検討し、とくに彼の詩人としての名声を外務省がどのように評価していたのかを考える。また赴任後の外交官の仕事として東京の日仏会館と京都の関西日仏学館の設立を巡る問題をこの訓令の目標と比較しながら検証する。
- (3) 外交官として通商・経済面での専門家だったクローデルは、「詩人大使」として歓迎された日本ではその評価を活用することで、文化外交に関する独自の視点も切り拓いた。そこで外交官と作家というふたつの面をまとめる視点から新たにクローデル像を捉え直す。

4. 研究成果

- (1) 平成 28 年度は研究全体のベースとなるフランスの外交方針とポール・クローデルの日本における外交官および文学者としての活動について、はば広く資料の収集、および検討を行った。とくにクローデルが日本で執筆した戯曲『繻子の靴』をめぐり、この戯曲の解読に取り組むとともに、この作品等に反映されているクローデルの東洋観、日本観 に関して考察を進め、『繻子の靴』と同時期の作品『女と影』に関して、日本への影響も含めた、多角的な検討を加えて発表した。また、インドシナ半島とフランス植民地をめぐる資料の読解を進め、1920 年当初のクローデルおよびフランス外務省の植民地に対する 姿勢の検討を行い、成果を発表した。さらに、クローデルの日本観、日本理解を整理するために、この詩人大使が日本に駐日大使として赴任した前後の日本文学の状況に関して、自然との関わりおよび「聖地」という視点から比較検

討を行う準備として、資料等の収集およびフィールドワークを実施した。

(2) 平成 29 年度は研究対象であるポール・クローデルが生誕 150 年を迎える平成 30 年にさまざまな記念行事を行うことから、その準備に取り組むことが実質的に中心の活動となった。その成果は、「ポール・クローデル生誕 150 年記念企画委員会」の委員として、また展覧会の実行委員として関わった。とくに平成 30 年 5 月から 7 月に神奈川県立近代文学館で開催される「詩人大使ポール・クローデルと日本」展に本研究の成果を反映させるように、資料の整理、論考の準備を行った。上記展覧会のカタログに、本研究の成果の一環として『外交官のまなざし』の項目で「外交官クローデル 二度の日本滞在を通して」、『日本の古典芸能に魅せられて』の項目で「三人のクローデル クローデルと日本の古典芸能」、また「クローデルの歩いた道」で「東京」「横浜」など、いくつかの論考、紹介文を発表した。

他方、学術的な論考の主なものとして、外交官クローデルと日本文化との接点に注目した「旅と詩人・ダンテと能・書物と舞台 1920 年代のクローデル」を発表した。

そのほか、演出家渡邊守章氏との対談「ポール・クローデル『繻子の靴』全曲上演にあたって」を行い、発表した。

(3) 平成 30 年度は本研究が対象としているフランスの外交官、詩人であるポール・クローデルの生誕 150 年にあたり、これまでの本研究の成果の一環として国際シンポジウムおよび広く一般に向けた展覧会を開催した。展覧会は平成 30 年 5 月より 7 月まで横浜の神奈川県立近代文学館において「詩人大使ポール・クローデルと日本」という題のもとに、関連資料の開示と説明を行い、およそ 3000 人の入場者を得たことで、詩人および外交官としてのクローデルの日本における活動を、本研究の成果の一環として広く公開した。国際シンポジウムに関しては、11 月 3 日、4 日に東京の日仏会館における「ポール・クローデルの日本」で本研究成果の一部を開示した。さらに 11 月 8 日の京都のアンスティチュ・フランセ関西では本研究が共催となり、「東洋という偉大な書物を開く クローデルと日本」という国際シンポジウムを開催し、日仏交流の歴史を考察した。また 2019 年 3 月にアンスティチュ・フランセ東京でクローデルの「真昼に分かつ」上映会を開催した。出版物に関しては、上記の神奈川県立近代文学館での「詩人大使ポール・クローデルと日本」のカタログを編集し、「日本の古典芸能に魅せられて」と「外交官クローデルのまなざし」の 2 本を掲載することで、本研究の成果を広く公表した。

(4) 令和元年度においては、研究者は成果の発表として、二本の論文を刊行した。ひとつは「ポール・クローデルと日本のカトリック布教」というタイトルで、本研究の調査対象であるポール・クローデルが外交官とカトリック布教の面で 1920 年代の日本のカトリック布教の状況とどういった関わりを持ったかを、外交文書を出発点として検証したものである。

もうひとつは、2018 年 11 月に日仏会館で行われたクローデル生誕 150 年記念シンポジウムを基にした論集に収録された「日本が見たポール・クローデル クローデルとその作品の日本における受容」と題する論考である。

(5) 令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の世界的規模の感染広がりの影響を受け、当初予定をしていたフランスおよび国内におけるポール・クローデルの外交官および作家としての活動の資料を収集する作業が、ほとんど行えない状況となったが、主にメール等で各地の専門家と情報を交換・共有した。そのうえで本研究の成果発表として、2021 年 3 月 11 日、12 日および 17 日、18 日の 4 日間にわたり、「クローデルセミナー 2021 クローデルとその時代」という連続セミナーを、オンラインにより開催した。これは本研究（「フランスの対外文化製作の一環としてのクローデルの駐日大使赴任に関する調査委と研究」）と別の科研助成（「クローデルの日本論に見られる東洋思想の影響と新トマス主義との関連についての研究」研究遂行者 慶応義塾大学 大

出敦教授)が共同で主催となり、4日間を「クローデルと日本」、「クローデルと演劇」、「クローデルと宗教」、「クローデルと外交」の4つのテーマに分け、多角的にクローデルの活動を検証するもので、12名の登壇者による活発な発表と議論が行われた。研究遂行者は主催者としてこのうちの2日において司会進行役を務め、また発表(「クローデルの戯曲 - 1910年代から1920年代へ」)を行なった。さらに最終日にセミナー全体の総括を行った。

(6) 2度目の延長とした令和3年度も新型コロナウイルス感染症の世界的規模の感染広がりの影響を受け、当初予定をしていたフランスおよび国内におけるポール・クローデルの外交官および作家としての活動の資料を収集する作業はほとんど行えない状況となったが、前年に引き続き、主にメール等で各地の専門家と情報を交換・共有した。そのうえで本研究の成果発表として、2021年3月に本研究の主催により行った「クローデルセミナー2021 クローデルとその時代」という連続セミナーの成果を整理し、論考を準備した。他の登壇者の論考と合せて2022年度内に刊行予定である。

総括として、本研究は当初の目標である文化外交の中のクローデルという研究分野においては、平成30年度の神奈川県近代文学館における展覧会およびカタログに発表した論考、同年の二つのシンポジウムの開催で研究が進展し、またその成果を広く公表することができたとい考えている。新型コロナウイルス感染症という予定していなかった障害のために、研究の後半は計画していた渡仏等による資料の充実は十分には果たせなかったが、延長期間に主催した「クローデルとその時代」は、本研究の主旨に沿ったものであり、対象を外交、宗教まで広げた議論が行えたことは、大きな成果だったと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 根岸徹郎	4. 巻 1
2. 論文標題 日本が見たポール・クローデル	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『ポール・クローデル 日本への眼差し』	6. 最初と最後の頁 341-374
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根岸徹郎	4. 巻 96号
2. 論文標題 ポール・クローデルと日本のカトリック布教	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現文研』	6. 最初と最後の頁 40-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根岸徹郎	4. 巻 671
2. 論文標題 「日本の《発見》 西欧人 / 日本人による《旅行》と明示・大正期のガイドブック～ポール・クローデルの目に映った1898年と1920年代の日本を例として」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『専修大学社会科学研究所月報』	6. 最初と最後の頁 36-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根岸徹郎	4. 巻 1
2. 論文標題 三人のクローデル～クローデルと日本の古典芸能	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 詩人大使ポール・クローデルと日本	6. 最初と最後の頁 71-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根岸徹郎	4. 巻 1
2. 論文標題 外交官ポール・クローデルー二度の日本滞在を通して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 詩人大使ポール・クローデルと日本	6. 最初と最後の頁 106-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根岸徹郎	4. 巻 1
2. 論文標題 クローデルの歩いた道 東京・皇居内濠	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 詩人大使ポール・クローデルと日本	6. 最初と最後の頁 41-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根岸徹郎	4. 巻 1
2. 論文標題 クローデルの歩いた道 横浜・関東大震災	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 詩人大使ポール・クローデルと日本	6. 最初と最後の頁 119-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根岸徹郎	4. 巻 21
2. 論文標題 旅と詩人・ダンテと能・書物と舞台 1920年代のクローデル	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 舞台芸術	6. 最初と最後の頁 50-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊守章・根岸徹郎	4. 巻 20
2. 論文標題 ポール・クローデル『縞子の靴』全曲上演にあたって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 舞台芸術	6. 最初と最後の頁 145-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根岸徹郎	4. 巻 642 - 643
2. 論文標題 ポール・クローデルの見た1920年代のフランス領インドシナ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 専修大学社会科学研究所月報	6. 最初と最後の頁 122-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 根岸徹郎	4. 巻 19
2. 論文標題 『縞子の靴』 - - あるいは観てみなければ分からないこと	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 L'Oiseau Noir	6. 最初と最後の頁 123-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 根岸徹郎
2. 発表標題 クローデルの戯曲 - 1910年代から1920年代へ
3. 学会等名 クローデルセミナー2021 クローデルとその時代（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 根岸徹郎
2. 発表標題 《ombre》と《double》 クローデルのドラマツルギーの要素をめぐって
3. 学会等名 日本クローデル研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 根岸徹郎
2. 発表標題 物質化された詩想 日本におけるクローデルの果実
3. 学会等名 「東洋という偉大な書物を開く クローデルと日本」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 根岸徹郎
2. 発表標題 クローデルとドイツ
3. 学会等名 日本クローデル研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 根岸徹郎
2. 発表標題 “Adieu au Danemark” (1921)をめぐって
3. 学会等名 日本クローデル研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 根岸徹郎
2. 発表標題 文学空間としての吉野
3. 学会等名 専修大学社会科学研究所
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 大出敦ほか編 根岸徹郎ほか共著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 387
3. 書名 ポール・クローデル 日本への眼差し	

1. 著者名 アルバム・クローデル編集委員会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 134
3. 書名 詩人大使とポール・クローデル	

1. 著者名 アルバム・クローデル編集委員会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 134
3. 書名 詩人大使ポール・クローデルと日本	

1. 著者名 神山彰編 根岸徹郎ほか共著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 358
3. 書名 演劇のジャポニスム	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 東洋という偉大な書物を開く クローデルと日本	開催年 2018年～2018年
----------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------